

金属材料事業

2021年度中期経営計画の基本方針

2018年度中期経営計画においては、「棚卸資産の増加」「国内製造拠点で実施した大型投資の刈り取りの遅れ」という2つの課題が残りました。2021年度中期経営計画では、これらの課題を認識したうえで、事業間シナジーの創出とお客様との協創を進めることにより、「No.1の高機能金属材料事業体」の実現をめざします。

2019年度業績概況

■特殊鋼製品

工具鋼は、中国を中心とした海外市場の需要減や国内流通を含む在庫調整により減少しました。各種ロールは、国内向けが増加、射出成形機用部品は第3四半期からの需要急減により前年度を下回りました。

産機材は、自動車関連製品の需要が減少したことにより減少しました。航空機・エネルギー関連材料は、航空機およびエネルギー関連材料の需要増により増加しました。

電子材は、有機ELパネル関連部材が伸長し、クラッド材がスマートフォンや電池向けで増加しましたが、半導体パッケージ材料の需要が減少したため、全体としては減少しました。

調整後営業利益は、主力の工具鋼や産機材の需要の減少、原材料価格下落の影響、および需要に対応した仕掛品圧縮などにより減益となりました。

■素形材製品

自動車鑄物のうち、鑄鉄製品は、北米でライトトラックや乗用車の需要の減少が継続したことに加え、第2四半期まで比較的堅調に推移してきた商用車や建設機械・農業機械向けも第3四半期より減少したほか、アジアでも需要が落ち込みました。さ

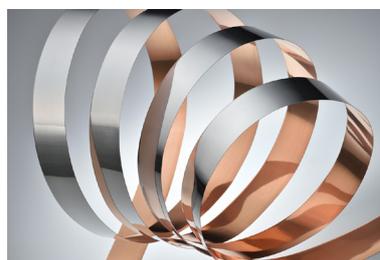
らに、年度末には新型コロナウイルス感染症拡大の影響も加わり前年度を下回りました。耐熱鑄造部品は、新車販売台数の減少や収益改善を目的とした受注の厳選などにより減少しました。アルミホイールについては、事業の撤退を決定し、2019年3月にアルミホイールを生産する米国連結子会社を売却したほか、国内事業についても2020年9月末の生産終了に向けて計画どおり進捗しています。

配管機器のうち、継手類は国内、海外向けとも前年度並みでした。半導体製造装置用機器は、設備投資案件の延伸などにより減少した結果、配管全体としては前年度を下回りました。

調整後営業損益は、主力の北米自動車鑄物事業の需要低迷や半導体製造装置用機器の不調継続等に加え、年度末に感染症の拡大を受けて主要顧客が操業を停止した影響などにより、減益となりました。

| | | 2019年度実績 |
|-------|----------|----------|
| 特殊鋼製品 | 売上収益 | 2,506億円 |
| | 調整後営業利益 | 55億円 |
| | 調整後営業利益率 | 2.2% |
| | ROIC | 1.9% |
| 素形材製品 | 売上収益 | 2,997億円 |
| | 調整後営業利益 | △9億円 |
| | 調整後営業利益率 | △0.3% |
| | ROIC | — |
| 合計* | 売上収益 | 5,503億円 |
| | 調整後営業利益 | 46億円 |
| | 調整後営業利益率 | 0.8% |
| | ROIC | 0.8% |

※セグメント間相殺前の単純合計値



クラッド材



鑄物継手